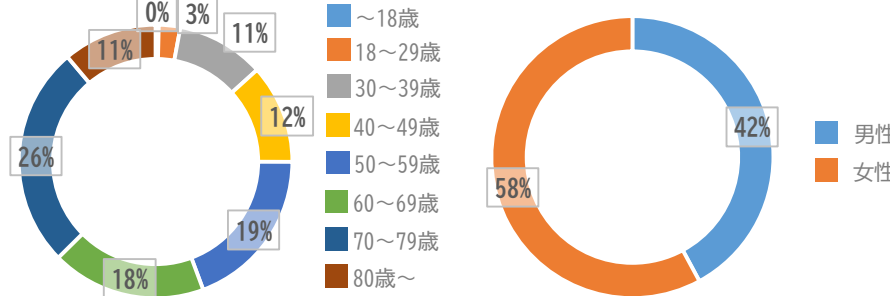


身近な交通に関する市民アンケート結果

目的：移動に関する困りごとの実態を把握し、今後の施策検討の参考とするもの。
期間：令和5年8月1日から9月15日まで
手法：LoGoフォームを活用したWEBアンケート（希望者には紙調査票を送付）
周知等：広報さがみはら（8/1号）、地域情報誌（9/1号全地区）掲載
 公民館等（パブコメ配架施設）へ配架
 市公式LINEでURLを発信（8/1、9/8）、「ヤフー暮らし」へ掲出
 さがみはら地域ポータルサイト掲出（Facebook、X(旧Twitter)での発信）
 電子母子健康手帳アプリ（さがアプリ）でURL発信
 老人クラブ、地域づくり部会、民生委員・児童委員協議会を通じた周知

◆回答数：3,206票

◆回答者の属性



集計1 移動に不便を感じる場面の状況（市全体）

	【全体】	【60歳以上】	凡例
不便を感じる場面の有無	ある 49% (N=3184) ない 51%	ある 45% (N=1755) ない 55%	ある (青) ない (赤)
不便を感じる移動の場面	通勤、通学 24% 病院 9% 買い物 9% 銀行、郵便局 4% 市役所など 22% イベント等への参加 23% その他 8%	通勤、通学 10% 病院 10% 買い物 8% 銀行、郵便局 4% 市役所など 25% イベント等への参加 34% その他 9%	通勤、通学 (青) 病院 (赤) 買い物 (黒) 銀行、郵便局 (黄) 市役所など (緑) イベント等への参加 (紫) その他 (白)
不便を感じる移動の距離	2km未満 26% 2km～5km程度 38% 5km以上 36%	2km未満 24% 2km～5km程度 41% 5km以上 35%	2km未満 (青) 2km～5km程度 (赤) 5km以上 (黒)
公共交通に求める環境	定時性 16% 速達性 24% 経済性 49% 快適性 11%	定時性 16% 速達性 26% 経済性 49% 快適性 9%	定時性 (青) 速達性 (赤) 経済性 (黒) 快適性 (黄)

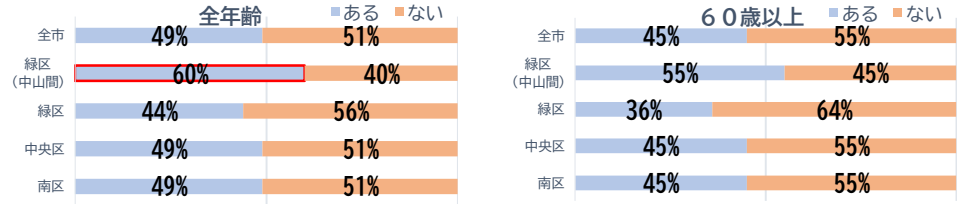
➢全体の約半数が移動に不便を感じている。
 ➢不便を感じる場面(目的)は、通勤・通学、病院、買い物が多く、60歳以上に着目すると、病院の移動に不便を感じる割合が多い。
 ➢不便を感じる場面の移動距離に着目すると、2km未満、2km～5km程度と回答した割合が65%であり、比較的、近距離での移動に不便を感じている。
 ➢公共交通に求める環境は、定時性が約5割と最も多く、次いで経済性が25%となっており、速達性と快適性を求める割合は比較的低い。

集計2 移動に不便を感じる場面の状況（区別）

※グラフの「緑区」は中山間地域を除く

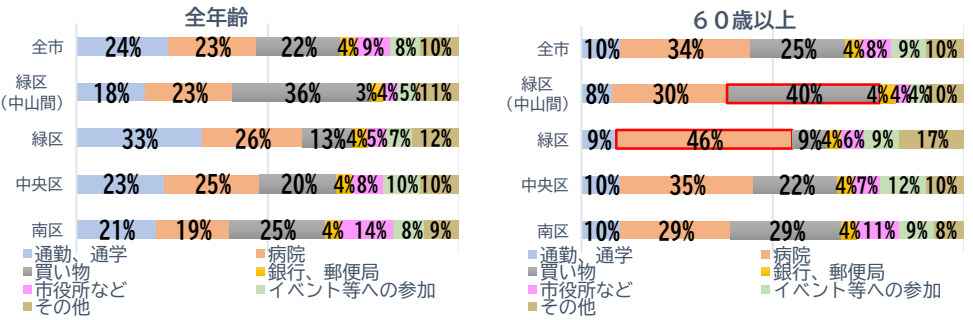
①不便を感じる場面の有無

➢全年齢と比較して、60歳以上の方が不便と感じていない。
 ➢緑区(中山間地域)の約6割が不便と感じており、全市および他地区と比較して多くなっている。



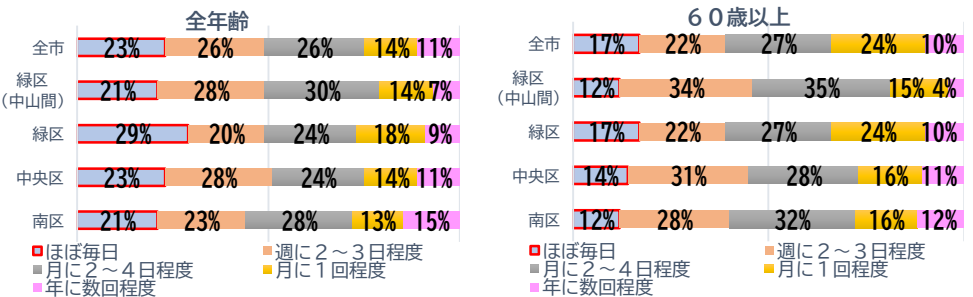
②不便を感じる移動の場面(目的)

➢60歳以上に着目すると、病院の移動において、不便と感じる割合が多くなっており、緑区(中山間を除く)では46%の割合を占めている。
 ➢緑区(中山間地域)に着目すると、病院より買い物の移動において、不便を感じている。



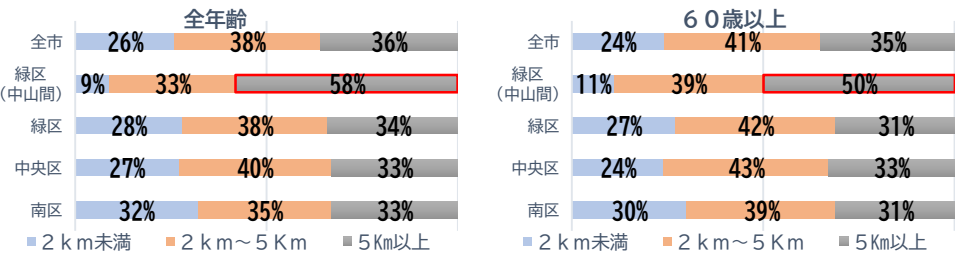
③不便を感じる場面(目的)における移動の頻度

➢全年齢では、ほぼ毎日の移動において、2割～3割程度、不便を感じているが、60歳以上では2割未満となっている。
 ➢全年齢と比較すると、60歳以上の方が、不便を感じる場面における移動頻度が少ない傾向にある。



④不便を感じる場面(目的)における移動の距離

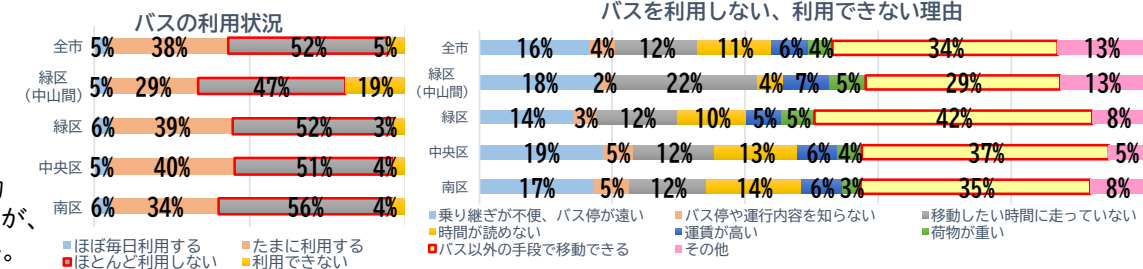
➢全年齢と60歳以上を比較すると、不便を感じる場面(目的)における移動の距離はほとんど変わらない傾向となっている。
 ➢緑区(中山間地域)に着目すると、他地区と比較して、5km以上の移動において、不便を感じている割合が多くなっている(5割以上)。



集計3 公共交通の利用状況等

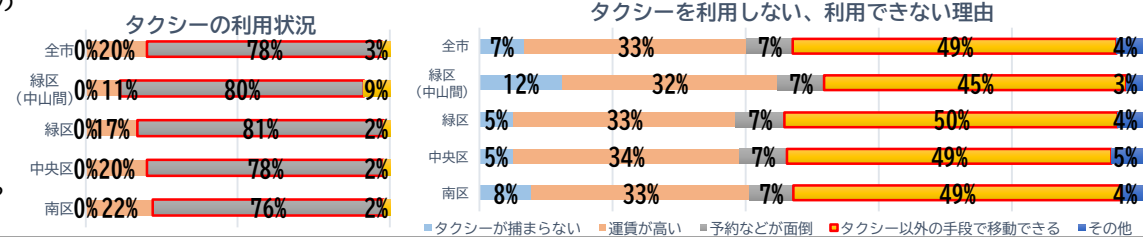
①バスの利用状況

➢約6割がバスを利用していない状況であり、緑区(中山間地域)では、約2割が利用できないと回答している。
 ➢3割から4割程度がバス以外の手段で移動できると回答しており、反対に約6割以上の方が、バスに不便を感じているため、利用していない。
 ➢約2割が乗り継ぎが不便、バス停が遠いとの理由からバスを利用していない。



②タクシーの利用状況

➢約8割がタクシーを利用していない。
 ➢タクシー以外の手段で移動できるとの回答が約5割であり、約3割が運賃が高い理由からタクシーを利用していない。



【考察】 ◆60歳以上は、通院と買い物の移動に不便を感じているが、移動頻度は週2日～3日、または月に数回程度に留まっている。
 ◆公共交通以外の手段で移動できる人が一定数いるが、一方で、バス停が遠い、タクシーの運賃が高いとの理由で公共交通を利用しない、または利用できない方がいる。

【今後の方向性】交通不便地域の解消に向けた身近な移動を支える新たな移動手段の検討

- ①乗合タクシー（小型車両活用、デマンド型、運行ルートは定めない）の有効性を検討
- ②緑区（中山間地域）における既存乗合タクシーの運行内容等の見直しを検討